

下野市立国分寺小学校

1 学校課題

学び合い・高め合う児童の育成（第3年次）
～各教科の特質を生かし、対話的な学びの
実現に向けた授業の創造～



2 研究計画

(1) 主題設定の理由

本校では、研究主題を「学び合い・高め合う児童の育成」と設定し、児童が主体的・対話的に活動する授業づくりとして、教師のファシリテート力の重要性や ICT 機器の効果について検討を続けてきた。

本年度は、ICT 機器の効果的な活用の仕方について継続して取り組むとともに、教科グループの研究内容をより職員全体で共有していけるようなシステムを再検討しながら、研究主題についての理解を深めていく。

(2) 基礎研究

- ①学習指導要領のねらいや授業改善の確認
- ②対話的な学びに関する先行研究の分析や共通理解
- ③ICT 機器を有効的に活用した授業の検討や共通理解
- ④本校の昨年度までの研究実践の成果の整理・活用

(3) 授業研究

- ①教科グループでの授業研究
- ②宇都宮大学共同教育学部附属小学校の教諭、市教育委員会指導主事に指導・助言を受けながらの研修（S&U コラボ事業、校内研修会）

(4) 関連研究

- ①小中一貫教育

3 研究内容

(1) 各教科における見方・考え方を意識した授業の実践

教科ごとに3～5名の少人数による教科グループを編成し、授業研究を行った。少人数のグループ編成により、一人一人が多く意見を出し合うことができるため、活発に意見交換をすることができた。また、授業実践についてデータや回覧で共有するようにしたため、自分のグループ以外の実践についても知ることができた。

(2) 対話的な学びを実現させる授業の工夫

子どもたちの意見をつなげたり、広げたりしていけるような教師のファシリテート力の重要性を認識してきた。そこで、教師のファシリテーターとしての役割について具体的な場面で考えたり、ICT 機器の活用法を提案したりしながら、校内研究授業を行った。

(3) 教師の指導力を向上させる教師の学び合い

S&U コラボ事業、校内研修会では講師の先生を招聘し、実際に授業を行っていただいた。子どもとのやり取りの様子を実際に見せていただけることは、ファシリテーターとしての役割を考える上でも大変勉強になった。また、より専門的なお話を伺うこともでき、授業について具体的に考える良い機会となった。

(4) 授業研究の足跡

月日(曜日)	種別	学年	単元名	課題追究のための手立て
6/22 (水)	学校課題 (グループ)	特支	自立活動 「円滑な人間関係の構築」	目的に応じた SST の実施。
6/29 (水)	学校課題 (S&U) 附属小小林先生による授業	5年	社会 「おいしいお米をつくるには？」	課題意識をもたせる資料の選択と提示の仕方。
9/21 (水)	学校課題 (S&U) 附属小秋澤先生による授業	4年	算数 「およその数の使い方と表し方を調べよう」	ICT 機器を使用した資料提示と数直線の活用による問いかけ。
9/26 (月)	学校課題 (グループ)	3年	道徳 「言い出せなくて」	自分ごととして考えることができるようにするための工夫。
10/4 (火)	学校課題 (グループ)	4年	音楽 「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」	旋律の特徴に気付けるよう比較聴取したり、図形楽譜を用いたりすること。
10/5 (水)	学校課題 (S&U)	6年	社会 「戦国の世から天下統一へ」	学習内容への興味を高めるために複数の資料を掲示すること。
10/19 (水)	学校課題 (グループ)	2年	算数 「新しい計算を考えよう」	様々な考え方をしたり、友達と共有したりするためのワークシートの工夫。
10/24 (月)	学校課題 (グループ)	2年	国語 「お手紙」	音読の工夫につなげるためのペア学習や動画の活用。
10/26 (水)	学校課題 (グループ)	5年	算数 「ならした大きさを考えよう」	考えを伝え合うための学習形態の工夫。

4 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ① 教師によるファシリテートでは、様々な視点からの働きかけや、ICT 機器の活用が有効であることを実感できた。
- ② 各教科グループの研究内容を共有しやすくしたことで、グループの枠を越え、職員全体で実践内容について共有することができた。

(2) 課題

- ① ICT 機器の活用について写真や動画の活用以外にも、いつ、何を、どのように活用すると、どんな成果があるのかについて継続して研究していく必要がある。
- ② 課題について、より具体的に考えていくために、来年度以降どんなテーマにスポットを当てて研究に取り組んでいくかを検討する必要がある。

